

今年の梅雨は短期間で終わりましたが、雨が降り続いています。長雨なども予想されており、みなさまが安全に過ごされることを祈念しております。現在会員登録数 3,804 人さま。次号は 8 月 20 日発行の予定です／

+-+-----+ ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----+ +

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

+-+-----+ +

■ ----- ■  
【1】お知らせ

● 「おはなしモノレール」参加者募集

貸切の大阪モノレール車内で「おはなし会」を楽しみ、彩都の会場で「パネルシアター」を観ていただくお子様向けのイベントです。5歳から小学3年生までのお子様と保護者、あわせて120人を募集します。今年の定員は例年の半分にしています。開催は9月19日（月・祝）で、参加費はひとり500円（大人・子ども同額）です。申込締切は9月1日（木）必着。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/01\\_kids/index.html#ohanashimonorail](http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#ohanashimonorail)

● 「第39回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（月）です。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html#39boshu](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#39boshu)

● 新しい出版物の販売を開始しました

『報告集「シンデレラ話の多様な世界を楽しもう』』 880円

2021年に開催した横川寿美子さんの講演会の報告集です。

『報告集「しかけ絵本に驚く、楽しむ イギリスの歴史からはじめて』』1430円

2020年に開催した三宅興子さんの講演会の報告集です。

『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第35号 1650円

朱自強さんの第18回 国際グリム賞受賞記念講演録も掲載されています。

詳細は ↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/05\\_publication/index.html#hanbai](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/05_publication/index.html#hanbai)

● 寄付金を募集しています

当財団は、子どもの文化を振興し、子どもと本をつなぐ活動を充実させるために活動しています。その活動をより充実させるために、皆さまからのご寄付を継続的に募っています。クレジットカードもご使用可能です。ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

年間1万円以上のご寄付でイイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable → <https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/m1\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html)

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■ ----- ■

【2】コラム

■ ----- ■

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『ひろしまの満月』 中澤晶子/作 ささめやゆき/絵 小峰書店 2022年6月  
対象年齢：小学校低学年から

\* 今回のゲストは当財団理事長の宮川健郎さん（T）です。

あらすじ：誰も住んでいない家の庭のすみに住んでいたかめが、その家に引っ越してきた小学2年生のかえでちゃんに出会って、むかしのことを思い出し、かえでちゃんに語る。それは、お寺の池に住んでいた子亀が、中学生のみのもるくんによってお弁当箱に入れて家に連れていかれ、そこで、みのもるくんの妹のまつこちゃんと出会い、友だちになる。そして、みのもるくんが原爆で命を落とすという内容だった。

Y：今の低学年の子どもに向けた「戦争」を伝える文学作品が出ました。

T：「わたしは、かめです。/「つるは、千年。かめは、万年。」/つるは長生き、かめはもっと長生き、といういみです。」(p.2)から始まる昔話的というか、メルヘン的な仕立てになっています。かめは満月の夜、涙を流しながら「みのもるくん」と言っって人間の言葉を話すことができるようになります。この作品は、それはどういうことだったのかを知る物語です。

Y：かめは、今、ひっこしてきたばかりのかえでちゃんと、過去の仲良しのまつこちゃんを重ねてまつこちゃんとの思い出を語ります。読者は、かえでちゃんの視点でかめの話を聞きます。

タイトルには「ひろしま」とありますが、作品の中で、「ひろしま」が出てくるのは、全62頁の14頁になってからとあとは52頁だけです。

T：「ひろしま」が最初から何度も出てくると、土地にまつわる伝説を聞くようなことになるけれど、場所の設定がない中でかめの物語を聞くことで、普遍化されます。

Y：誰もが「わたしごと」として聞くということですね。中澤さんの『ワタシゴト 14歳のひろしま』（ささめやゆき/絵 汐文社 2020年7月）とのつながりを感じます。両方の作品から、今の子どもが戦争を自分のこととして考えることと、語り継ぐことの大切さが伝わります。

T：低学年ぐらいの子どもに戦争をいかに伝えるかというのは、作家にとっても、児童文学全体にとっても大きな課題ですが、この作品はその一つのありようを示した作品としてすばらしいと思います。

Y：具体的な事象の重なり、お弁当箱の中に入れられてかめが目を回すなどのユーモラスな部分、お弁当箱や制服の陶器のボタンなどのモノのもつ具体性など、低学年の子どもに伝わる工夫が凝らされています。

T：ユーモラスな部分といえば、おかあさんがみのるくんを探しに行ったときのまつこちゃんを「ひとりでだいじょうぶだった？」と心配するかえでちゃんに、かめが「ひとりじゃありません、わたしがいました」というところ（p.45）もおかしかったですね。満月の魔力も、月明かりで薄明るい夜のような青を基調にした装丁も、ささめやさんの親しみやすくて心に訴える挿絵も心に残りました。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第83回「泉ある家」

〈息を呑む音〉が悲しく聞こえる

宮沢賢治の作品には、童話や詩とならんで、小説風の短編がいくつかあります。本作「泉ある家」は、そうした作品の一つです。

郡から土性調査を頼まれ、盛岡から山奥へやって来た富沢と斉田は、一日の作業を終え、鉱山で聞いた宿を探して泉の側にやってきます。泉では、恩給をもらっていきな古い役人風の老人が落を浸しており、たずねると老人の家がその宿屋であることがわかります。

宿には、その老人と二十歳ぐらいの娘が住んでおり、富沢たちは（この家はおじいさんと今の女の人と二人切りなようだな。）（あの女の方は孫娘らしい。亭主はきっと鉱山へでも出ているのだろう。）などと話します。

食事も済み、夜も更け、二人が疲れてうとうとしていると、台所の方で三、四人の声とともに、強い老人の声で〈ダーダーダーダーダースコダーダー〉と剣舞の囃しが聞こえ、驚いて目を覚まします。声の主が先ほどの老人なのかどうかはわかりません。30代と思しき男の声と、先の娘らしき声に混じって、〈心配そう〉に〈息をこくりとのむ音〉が近くにします。

やがて静かになり、ふたたび富沢たちが微睡んだとき、表の扉を酔っぱらいが烈しく叩き、また起こされてしまいます。主人は「返事するな。」と低く娘に言いますが、どうやら鉱夫らしい男は娘が開けた扉から入ってきて、その後着物の動く音などがします。富沢たちは、〈気兼ねや恥で緊張した老人が悲しくこくりと息を呑む音〉を聞きます。

二度に渡り、〈息をこくりとのむ〉のは、宿主の老人なのでしょう。この宿はいわゆる曖昧宿で、それをくまだまるでの子供〉である富沢たちは知らずに訪れます。役人風と語られる立派な老夫が気兼ねするのは、郡の仕事に従事して、疲れ切った富沢たちに人並みの宿を提供できなかったからであり、さらに恥辱と感じるのは娘が夜半に男を招き入れる卑しい生活を露呈したこと故と思われる。

こうした事情を斟酌し、（ああこんなに眠らなくては明日の仕事がひどい）と言いながらも、富沢は老人を気の毒に思います。無理に頼んで客となった自分たちの存在が、老人を斯様な心境に追い込んでいるからであり、静寂のなか、両者はじっと息をこらして相手を気遣います。老人の息をこくりと呑む音が悲しく伝わるとともに、山深い鉢山周辺に住む者の厳しい暮らしを感じずにはいられない作品と言えます。（ペ吉）

（参考：伊藤眞一郎「宮沢賢治の小説的作品について」1975年）

（本文の引用は、筑摩書房刊『宮沢賢治コレクション2 注文の多い料理店』によりました。）

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のことば 37

\*\*\*\*\*

自分の中には、十四歳であるために育まれてきたものなど、なにひとつみつからない。ただ経験を繰り返し、あらゆるものとの距離をうまく測れるための訓練を繰り返しているだけだ。自分はむしろ以前もっていたものを失いつづけているのではないか……。あの頃、アメリカで暮らしていたときにもっていたものを、いまではなにひとつもてずにいる。弟も父も、思い出せないが、その他のいろいろなものも……。尚子は、あの頃の自分のもっていた、つるりとした茹で卵のような体になつかしくてたまらなかった。

（『額の中の街』岩瀬成子/作 理論社 1984年3月 p.36）

尚子は日本のアメリカ軍の基地のある街で、アメリカ兵相手のスナックで働いている母と二人暮らし。子どものときは両親と弟とアメリカに住んでいましたが、両親の離婚をきっかけに9年ぐらい前に日本に帰国して、今は公立中学校に通っています。

この作品は、尚子を視点人物に、母が家に住ませるアメリカ兵のボーイフレンドとの暮らしや、学校へ行き、町の中を歩く様子が描かれ、アメリカでの生活や帰国してからの日々が回想されます。また、弟からの手紙が随所に挟まれることによって、弟と自分の境遇を比べます。

引用の部分は、尚子と友だちになろうとする同級生とのかかわりが描かれたあと、弟の手紙を読み、弟の写真を見て、弟の手紙と写真に母が拒否反応を示したことが書かれ、その手紙と母の言葉をきっかけに、アメリカにいたときに弟をいじめたことと両親の激しいけんかがあったことを思い出す場面の次に出てきます。尚子は、自分の顔を手鏡で見た後、電気を消して目を閉じて自

分自身について思いを巡らせます。尚子の思いが過去と現在を行き来する様子や、尚子の年を重ねると失うものがあるという思いや、「茹で卵のような体」という比喩表現が、現在の岩瀬作品につながっていると思いました。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

兵庫県立美術館で8月28日(日)まで開催されている「みみをすますように 酒井駒子展」に行ってきました。酒井駒子は1966年に兵庫県に生まれ、『リコちゃんのおうち』(偕成社 1998年)でデビュー後、数多くの絵本を創作したり挿絵を描いたりし、日本絵本賞や講談社出版文化賞絵本賞、ブラチ斯拉バ世界絵本原画展金牌賞、ピチュー賞(フランス)などの受賞歴があります。

今回の展示は、映像作品を含めると245点が出展されており、1. ある日(『金曜日の砂糖ちゃん』偕成社 2003年)、2. ひみつ(『はんなちゃんがめをさましたら』偕成社 2012年)、『ビロードのうさぎ』ブロンズ新社 2007年など)、3. こみち(『森のノート』筑摩書房 2017年)、4. はらっぱ(『くまとやまねこ』湯本香樹実/文 河出書房新社 2008年、『きつねのかみさま』あまんきみこ/作 ポプラ社 2003年など)、5. こども(『こうちゃん』河出書房新社 2004年、『ゆきがやんだら』学研プラス 2005年など)、6. くらやみ(『よるくま』偕成社 1999年など)に分けられて原画が展示されていました。

原画を見ると、油彩の筆のあとがたどれ、ゆっくりと左から右へとかすれを見せながらぬられている様子がわかります。「みみをすますように」という展覧会のタイトルを思い出しました。絵に共通するのは、全体に黒や灰色や濃い青が多く使われ、描かれている子どもが澆刺として元気というよりも、目を伏せていたり、微笑んでいたりして、見る者に、憂いや孤独や不安や空想の世界に生きているというイメージを抱かせるということです。時にはエロティシズムを感じさせるものもあります。どの作品も絵の外の広い世界が想像でき、時間が流れている瞬間をとらえていてその前後が想像できます。

なぜか、見ているうちに、いわさきちひろや林明子を思い出しました。子どもの幼さを愛おしいと思っている大人の目線が感じられるからでしょうか。多くの女性に人気の理由はこんなところにもあるのかもしれないと思いながら、帰途につきました。(Y)

兵庫県立美術館 <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

■-----■

### 【3】全国のイベント紹介

■-----■

#### ●「大阪国際児童文学館を語る会・考える会 2022」

〈第1部〉はじめに「財団の今 これからそして子どもの本は」

講師：宮川健郎(当財団理事長、武蔵野大学名誉教授)

〈第2部〉記念講演会「米軍基地のある町で」

講師：岩瀬成子(児童文学作家)

〈第3部〉語り合う（てい談）「子どもの本に見る家族の形はいろいろ」

岩瀬成子、宮川健郎、進行：土居安子（当財団理事・総括専門員）

日時：7月30日（土） 13：20～16：30

場所：ドーンセンター〔大阪市〕 参加費：有料 ※要申し込み

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■  
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ひろしまの満月』をプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.143 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ

office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は8月11日（木）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |  
— | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

夏祭りのシーズンです。私の地元では、三年ぶりの開催が決定し、早くからだんじりの飾りつけが始まりました。第7波を気にしつつ、ウイルスを追い払ってくれたらいいなと思いながら、鐘と太鼓の音に耳をすましています。

(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いいたします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp